

## 令和6年度教育に関する事務の管理及び執行の 状況の点検及び評価について

### 1 目的

教育行政をより効果的、効率的に推進するため。

### 2 根拠

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条

- 教育委員会は毎年、所管事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に報告するとともに、公表しなければならない。
- 点検及び評価に当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 3 点検及び評価の対象（令和5年度事業）

台東区教育委員会では、平成30年度より「学びのキャンパス台東アクションプラン」、  
「生涯学習推進計画」及び「スポーツ振興基本計画」の3つの計画のうち、教育委員会  
以外の事業を除いたすべての施策及び事業について点検及び評価を行い、教育行政の推  
進を図ってきた。

今年度については、「生涯学習推進計画」に掲載されている事業のうち、計画上重点施  
策と定めた事業及び新規に掲載した事業を対象に24事業の点検及び評価を行い、施策  
方向については、施策を構成する取組の成果や課題等を踏まえて総合的に点検及び評価  
を行った。

### 4 点検及び評価の方法

各事業を客観的な基準で採点・評価するために、「教育施策総括シート」と「教育事業  
評価シート」を活用した。

なお、教育事業評価シートについては、次の基準で3段階に分けて評価した。ただし、  
今回対象としている「台東区生涯学習推進計画」については、計画目標が計画最終年度  
である令和9年度末時点で設定しているため、点検対象とする事業実施年度(令和5年  
度)における進捗度で評価した。

#### 【評価基準】

評価	評価基準
A	計画どおり進捗している又は計画された事業が実施されている場合
B	概ね計画どおり進捗している又は計画された事業が一部実施されている場合
C	計画の進捗に遅れが生じている又は計画された事業が未実施の場合

## 5 学識経験を有する者の知見の活用

点検及び評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方のご意見をお聞きする機会を設け、ご意見・ご助言をいただいた。

### ■ 学識経験者

氏名	所属等
伊藤真木子	青山学院大学教授
山本 裕一	亜細亜大学非常勤講師

## 6 今後の予定

委員会報告終了後、HPで報告書を公開する。

## 5 点検及び評価の結果(教育施策総括シートより抜粋)

### 【台東区生涯学習推進計画】

#### 【基本目標】 1 多様な分野における学びの機会を充実する

生涯学習に取り組むことは、自身の人生をより豊かにするとともに、社会参加の第一歩となる重要なものです。全ての区民が生涯学習に取り組むことができるよう機会を提供していく必要があります。

生涯学習に対するニーズの多様化に対応するため、世代ごとに必要となる学習機会の提供や、困難や課題を抱える方が学習に取り組める機会の充実を図っていきます。

また、区内に存在する伝統・文化に関わる資源を活かした学習機会の提供や、生涯スポーツ社会の実現に向けた取組みも推進していきます。

区民の学習ニーズを踏まえ、誰もが学習に取り組むことができるよう、多様な学習機会の提供を進めていきます。

学習機会の提供にあたっては、地域や学校等との連携を図るとともに、区民が相互に学びあう機会を設定することでより豊かな学びを得られるよう内容の充実に努めていきます。

#### 基本目標に対する昨年度の取組結果

##### ○施策の方向1「世代に応じた学習機会の充実」

乳幼児の体験機会の充実(施策1)において、子供の読書活動推進については、おはなし会などの行事や団体貸出を通じて、子供が読書に興味を持つ機会を提供した。

青少年の学ぶ機会の充実(施策2)において、ジュニア駅伝大会については、参加者数が目標数値に届かなかった。これは、コロナ禍において、児童・生徒の継続的な運動の機会が減少したことが原因と考えられる。

成人の学びの充実(施策3)において、台東学びの広場については、目標値に届かなかった。これは、講座申込状況を鑑み、同日・同一講座を集約して開催したためである。

高齢者の学習機会の充実(施策4)において、シニアライフ応援計画については、計画目標を達成し、適切に事業の進捗を図った。

##### ○施策の方向2「多様なニーズや主体に応じた学習機会の充実」

家庭教育の充実(施策5)において、家庭教育学級については、計画目標を達成し、適切に事業の進捗を図った。

スポーツに親しむ機会の提供(施策6)において、チャレンジスポーツ教室については、計画目標を達成し、適切に事業の進捗を図った。スポーツの祭典については、目標の参加人数を達成することができなかった。これは、実施日が雨天でイベントの規模を縮小したため、目標に達しなかった。

芸術・文化・伝統に親しむ機会の提供(施策7)において、池波正太郎記念文庫管理運営については、令和5年に池波正太郎生誕100年を記念して、各種展示や講演会・講座、イベントなどを例年以上に実施することにより計画目標を達成し、滞りなく事業の進捗を図った。

多様な主体に応じた学習機会の提供(施策8)において、生涯学習センターの機能強化(誰でも活躍できる学習環境の充実)については、目標どおり進捗している。障スポチャレンジについては、計画目標を達成し、適切に事業を実施した。

## 【基本目標】 2 学び続けられる環境を充実する

生涯学習を始めたい、続けたいと思っても、様々な事情により取り組むことができない区民も少なくありません。誰もが気軽に生涯学習に取り組み、継続できる学習環境が必要です。

区民が、より生涯学習に取り組めるよう、多様な学習ニーズを踏まえ生涯学習センターや図書館などの初回教育施設の機能を充実し、学びの場を提供していきます。

また、区民が学びのきっかけとなる情報を得られるよう、情報提供・発信の充実を図るとともに、ICTを活用し、時間や場所を選ばずに学習に取り組める環境を整備することにより、区民が学び続けられる環境の充実を図っていきます。

社会教育施設については、今後のニーズの変化も踏まえながら、適切なサービスを継続して提供できるよう、効果的・効率的な施設の活用やサービスの提供方法についても検討を進めていきます。

## 基本目標に対する昨年度の実施結果

### ○施策の方向3「時代の変化に対応した施設整備」

生涯学習施設の充実（施策9）において、生涯学習センターの機能強化及び誰もが利用しやすい施設の整備については、目標どおり進捗している。図書館の機能強化については、計画目標である図書館機能強化の推進に向け、中央図書館リニューアルのコンセプトと整備内容を定めた。引き続き運用面も考慮に入れ、図書館の機能向上の検討を進めていく。

### ○施策の方向4「学びを継続できる支援の充実」

情報発信の充実（施策10）において、学習情報提供の充実については、計画目標を達成し、滞りなく事業の進捗を図った。

ICTを活用した学びの充実[重点施策]（施策11）において、生涯学習センターの機能強化（ICTを生かした学習環境の充実）については、目標どおり進捗している。ICTを活用した生涯学習事業の推進については、計画目標を達成し、適切に事業を実施した。ICTリテラシー向上支援については、目標値に届かなかった。これは、パソコン講座及びスマートフォン講座のデジタル講座（14講座）について、令和5年度は事業組替前の「台東学びの広場」において実施したため、実施回数が目標に達しなかった。

### 【基本目標】 3 学びの成果を活かす取組みを推進する

生涯学習を単なる学びで終わらせることなく、その成果を様々な場で積極的に活かしていくことは、誰かの役に立っているという喜びや自信の成長の実感をもたらし、新たな学びを求める熱意や積極的な活動への参画につながっていきます。また、学習成果の活用は、社会や地域の発展にとっても大変重要なものです。

そのため、地域や社会の課題解決や活動に取り組むための学習機会の提供や、区内団体の活動支援、成果を活用する場の充実などを図ることで、区民が学んだ知識や技能をより活用できるよう支援の充実を図ります。

### 基本目標に対する昨年度の実績結果

#### ○施策の方向5「学習成果の活用を促進するための支援の充実」

活動に取り組む担い手の育成（施策12）において、スポーツボランティアの育成については、目標とする登録者数には届いていないが、登録者数は令和4年度から増加しており、概ね計画どおり進捗している。

成果を活用する場の整備・充実（施策13）において、生涯学習ボランティアについては、計画目標を達成し、適切に事業の進捗を図った。

#### ○施策の方向6「学びの成果を地域活動につなげていくための支援の充実」

学習と活動の循環の促進[重点施策]（施策14）において、生涯学習センターの機能強化（学習成果の発表の場の充実）については、目標どおり進捗している。台東学びの広場（現代課題講座）及び台東区民カレッジについては、計画目標を達成し、適切に事業の進捗を図った。

地域と共同した取組みの推進（施策15）において、台東区文化祭については計画目標を達成し、適切に事業の進捗を図った。

対象事業と個別評価一覧

施策	事業名	評価
基本目標1 多様な分野における学びの機会を充実する		
施策の方向1 世代に応じた学習機会の充実		
施策1	子供の読書活動推進	A
施策2	ジュニア駅伝大会	C
施策3	台東学びの広場	B
施策4	シニアライフ応援計画	A
施策の方向2 多様なニーズや主体に応じた学習機会の充実		
施策5	家庭教育学級	A
施策6	チャレンジスポーツ教室	A
	スポーツの祭典	C
	ジュニア駅伝大会[再掲事業]	C
施策7	池波正太郎記念文庫管理運営	A
施策8	生涯学習センターの機能強化 (誰でも活躍できる学習環境の充実)	A
	障スポチャレンジ	A
基本目標2 学び続けられる環境を充実する		
施策の方向3 時代の変化に対応した施設整備		
施策9	生涯学習センターの機能強化	A
	誰もが利用しやすい施設の整備	A
	図書館の機能強化	A
施策の方向4 学びを継続できる支援の充実		
施策10	学習情報提供の充実	A
施策11	生涯学習センターの機能強化 (ICTを生かした学習環境の充実)	A
	ICTを活用した生涯学習事業の推進	A
	ICTリテラシー向上支援	B
基本目標3 まなびの成果を活かす取組みを推進する		
施策の方向5 学習成果の活用を促進するための支援の充実		
施策12	スポーツボランティアの育成	B
施策13	生涯学習ボランティア	A
施策の方向6 学びの成果を地域活動につなげていくための支援の充実		
施策14	生涯学習センターの機能強化(学習成果の発表の場の充実)	A
	台東学びの広場(現代課題講座)	A
	台東区民カレッジ	A
施策15	台東区文化祭	A

計：24事業(内訳：A:18、B:3、C:3)

## 6 学識経験者による意見

○伊藤 真木子(青山学院大学教授)

【基本目標1】多様な分野における学びの機会を充実する

### [全般]

すべての事業を点検・評価したのではなく、教育委員会所管の事業のうち、「重点施策」「新規掲載」とあるものを中心に点検・評価を行ったとのことで、具体的には事業番号2, 5, 16, 24, 28, 34, 35, 46, 57, 58についての評価結果をみた。

大規模で単発の体育・スポーツ関連イベントについて「参加者数が前年度を下回ったため」という理由でCとなっているほかは、全ての事業についてAと評価されており、概ね計画通りに進んでいる状況がうかがえる。

### [個別事業について]

「ジュニア駅伝大会」「スポーツの祭典」については評価Cとなっているが、参加者数が前年度を上回り続けることが必ずしも意味あるとは限らず、運営面での安全や参加者の満足が担保できる人数設定が大事ではないだろうか。そう考えると、元々の目標値(参加者数)の設定を再考することも必要かもしれない。

たとえば、「ジュニア駅伝大会」については、年々参加者数が減っている理由を具体的に分析する、「スポーツの祭典」については、雨天時の参加者数の減り幅を予め試算する、そういった分析や試算をふまえた目標値の設定が必要ではないだろうか。また、大規模で単発の事業であるだけに、事前の広報がどれほど効果的に出来ているか、対象層における事業の周知度といった観点からも、点検する必要があるかもしれない。

## 【基本目標２】 学び続けられる環境を充実する

### 【全般】

基本目標１と同様に、一部の事業（７５，７６，７７，８７，８８，８９，９０）についての評価結果をみたに留まるが、全てＩＣＴに焦点があたるかたちで点検・評価がなされて、殆ど全てがＡ評価となっている。情報化が進む時代変化への対応として最低限必要な環境整備であり、これらが概ね計画通りに進んでいることは大事であろう。

また、情報弱者や情報格差、情報リテラシーの問題など、いわば情報化の負の側面についても意識された事業展開が見受けられるのも重要なことで、今後も着実な取組が求められるところだろう。

### 【個別事業について】

「生涯学習センターの機能強化」「図書館の機能強化」については、ＩＣＴ環境の整備等に注力されるのは当然でもあるが、同時に、従来から社会教育の領域では大切にしてきた、対面的な人間関係のなかでの学びの意義を今一度見直し、あらたな環境を創出することも重要だといえるであろう。

人と人との関係をとりにつのはやはり人であると考えれば、運営に関わる職員等の配置や研修といった面からの機能強化についてもより重視すべきであると思われ、そうした観点からの目標値の設定について検討することの意義は大きいように思われる。

### 【基本目標3】学びの成果を活かす取組みを推進する

#### 【全般】

基本目標1, 2と同様にここでも、一部の事業(95, 110, 113, 114, 115, 120)についての評価結果をみたに留まるが、殆ど全ての評価がAで計画通り順調に進んでいるとされている。しかしここで「学びの成果はいつどこで発現するのか」などと考えると、一律の評価シートで十分な点検が可能なのか、と考えさせられるところもある。

例えば、発表機会の提供が主となる事業は、従来から他の自治体でも定着しており、台東区でも安定的な運営が続いていると推測される。一方で、地域課題をあつかう講座実施を主とする事業については、単年度での実施回数や参加者数のみで点検するだけでなく、台東区固有の工夫や課題などにも着目し、より充実した内容になることを期待したい。

#### 【個別事業について】

「台東学びの広場」「台東区民カレッジ」については、個人的な興味関心に応じた学習機会提供ということではない、社会的な課題を扱う学習機会提供としての意義や困難、課題もあるはずなので、課題解決に向けた行政としての働きかけや、住民の考えや行動に対して、職員(学習支援者)や受講者(学習者)がそれぞれどのような課題を認識しているのか、受講者の意識変容が地域の変容にどうつながっていくのか、といったプロセスの記録として本評価シートが生かされると良いのではないだろうか。

## ○山本 裕一(亜細亜大学非常勤講師)

### 【基本目標1】多様な分野における学びの機会を充実する

#### 【全般】

本計画は、3つの基本目標の下位施策の実施をとおしてその目標実現を図ろうとするという設計となっている。こうした枠組みでは、目標実現のためにそのカテゴリーに属する施策は、当該カテゴリーの目標実現のための手段として講じられることになるが、それらの施策を他の目標実現のためにも講じていく発想も意義があると考ええる。

たとえば、「シニアライフ応援計画」(1-1-4)において「シニア世代が、趣味や経験を活かし地域活動に参加することで・・・」(取組の概要)とあるように、基本目標1の施策が基本目標3の施策の実現にもつながっている例が存在している。

3つの基本目標は、並列ではなく積み上げによる正月の“お供え餅”をイメージするとわかりやすい。まず学びの機会を提供(基本目標1)し、それを持続可能にするための工夫(基本目標2)を凝らし、最終的には区民の社会参加の機会を構築(基本目標3)していくというステップである。すべての事業をこうした観点から行うことは現実的ではないが、担当者がこうした点を意識しながら企画実施することで、より高度なレベルの事業展開が可能になると考える。

#### 【個別事業について】

上記の発想で考えてみると、「子供の読書活動推進」(1-1-1)では、「子供が読書に興味を持つ機会を提供することができた」とあるので、それをさらに進めて事業に参加して興味を持った子供が下級生に読み聞かせをするなどの学んだ成果を活かす(基本目標3)場面も考えられるのではないかと。また、「ジュニア駅伝大会」(1-2-6-③)では、他の自治体の成績優秀者の参加を得てグランドチャンピオン大会を開催するなど、継続性を意識した展開(基本目標2)が考えられる。

こうして得られた事業成果を参加者数などの実績とともに新たな評価軸として評価していくことにより、質的側面からさらなる事業の充実を図ることができるのではないかと。

## 【基本目標２】学び続けられる環境を充実する

### 【全般】

本計画にも掲載されている持続可能な開発目標（SDGs）は、中央教育審議会答申（平成30年）でも紹介されており、答申では優先的に進める分野として「あらゆる人々の活躍の推進」を挙げている。本計画の「課題の整理」で指摘しているように、本区の定住外国人の割合は東京23区で4番目に高い割合となっており、外国人に対する学習機会へのアクセスの充実が本区の喫緊の課題であるといえる。

今後、ICT環境など生涯学習施設の充実を図っていくためには、こうした外国人を視野に置き、「あらゆる人々の活躍の推進」のための施策を実施していく必要があるが、その際、アクセスの充実という観点からはハードの整備とともに、“交流”を意識したソフトの整備を併せて行っていく必要があると考える。

### 【個別事業について】

今日の厳しい財政事情のもと、生涯学習施設の充実という観点から着実に計画を進めている点は評価できる。今後は「図書館の機能強化」（2-3-9-③）に記載されているように、「人」と「人」をつなぐといったソフトの観点からの施策を図書館だけではなく学習情報提供の分野も含め幅広く展開していくことを望みたい。

### 【基本目標3】学びの成果を活かす取組みを推進する

#### 【全般】

本計画に「学びの成果を活かす取組みを推進する」を基本目標の一つに置いていることを評価したい。教育基本法第3条の「生涯学習の理念」においても、学んだ成果を適切に生かす社会の実現が図られなければならないと規定しており、本区の持続可能な発展のためにさらなる充実を図っていただきたい。

#### 【個別事業について】

「成果を活用する場の整備・充実」（施策13）として「生涯学習ボランティア」（3-5-13）の事業が行われていたり、「学習と活動の循環の促進」（施策14）、「地域と協働した取組みの推進」（施策15）においても目標達成のための事業を行っており評価することができる。一方で、生涯学習分野においてはこれまでたびたび指摘されてきた「社会教育行政のネットワーク型行政への転換」という点では、今後の課題であるといえる。たとえば、生涯学習ボランティア（前出）において首長部局と連携した新たな活動先の掘り起こし、あるいは台東区文化祭（3-6-15）では、社会教育団体協議会加盟団体とともに、さらに地域活動を行っている多様な団体の参加も視野に入れることが考えられる。

今後、生涯学習課が核となって様々な部局との連携を図り、区民の学習成果を広く活かすことができるような場の整備に務めていただきたい。